

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オオワシ

Haliaeetus pelagicus (Pallas, 1811)

玉田克巳（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：玉田克巳，2026．オオワシ．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 572-577．

Citation: Tamada, K., 2026. *Haliaeetus pelagicus* (Pallas, 1811). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 572-577.

タカ目 Accipitriformes タカ科 Accipitridae

オオワシ

Haliaeetus pelagicus (Pallas, 1811)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		D1	
基準 A: —	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: VU	基準 E: —	
D1. 成熟個体数が 1,000 未満と推定される。 【推定根拠】 ここ数年の一斉調査では、多い年に 1,200-1,900 羽で推移している。このうち、成鳥は約 70%である。ここから成熟個体（成鳥）を算出すると 840-1,330 羽（中央値 1,085 羽）と推定される。誤差も考慮し、予防原則の視点にたつと、成熟個体の個体数は 1,000 羽未満である可能性もある。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

アジア極東部に分布する大型のワシ。日本には冬鳥として飛来する。ロシアのオホーツク海周辺地域で繁殖し、北海道本島と北方四島が主要な越冬地になっている。魚類や水禽類、海棲哺乳類を主な餌とするが、越冬地の餌不足により漁業活動から供給される魚等の人為的餌資源にも依存している。最近の我が国の越冬数は 1,200-1,900 羽で推移している。越冬地では鉛中毒や各種事故による死亡、繁殖地では繁殖成績の低下が危惧されている。

協力者： 中川元（知床自然アカデミー）

基礎情報

【形態】

大型のワシ類で全長 85～94 cm。翼開長 220～250 cm。体重 4,900～9,000 g。メスはオスよりも大きい。成鳥は体が黒褐色で尾羽と雨覆羽、腿、額が白い。嘴は大きく鮮黄色。脚と虹彩も黄色。雌雄同色。若鳥は全身褐色から黒褐色。尾羽はやや白く先端や外縁に褐色斑がある。尾羽の褐色斑は年齢が進むにしたがって減り、4 年目にはほぼ純白になる。嘴と脚は淡い黄色。

【生活史】

日本には冬鳥として飛来する。ロシア極東の繁殖地では、4～5 月上旬に産卵し、一腹産卵数は通常 2 卵（1～3 卵）である。ダケカンバやヤマナラシなどの大木に営巣するが、岩棚や独立岩の上にも巣を作る。雛が孵化するのはアムール川下流域では 5 月末～6 月で、8 月には幼鳥が巣立つ。マガダン州やアムール川下流域、サハリン北東部で夏を過ごした個体の多くが、10 月～11 月初旬に宗谷海峡を経て北海道へ渡る。初冬期は、北海道内のサケの遡上河川や北方四島で過ごす。1～3 月の厳冬期には知床半島海岸、宗谷海岸、風蓮湖や厚岸湖など北海道東部の海岸や湖沼に集まるほか、北海道南西部の河川や、本州北部、中部、南西部、対馬にも飛来する。河川に遡上したサケの死体を餌とするほか、魚類や海鳥類、海棲哺乳類の漂着死体なども食べる。厳冬期には湖沼の氷下待網漁から供給される未利用魚を求めて集まるほか、漁港に落ちる魚、観光船の餌付けなど、人為的な餌資源にも依存している。道東の越冬地では海岸や湖沼周辺の針広混交林などをねぐらにする。3 月に繁殖地への渡りを始めるが、若鳥は 4 月下旬まで残るものがあり、知床半島ではまれに夏にも観察される。

【生息環境】

国内では、主に海岸や湖沼の周辺、河川の中・下流域のほか、海氷の分布する沿岸海域に飛来するが、エゾシカの死骸がある山林にも飛来する。主に水辺で採餌し、海岸の森林や湖沼周辺の森林を休み場やねぐらとして利用する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】河川中流域，ため池・池沼，湖・ダム湖
	【陸域_平地部 海岸部】河川中流域，河川下流域，河口域，潟・湖・ダム湖，海崖・岩浜・岩礁（磯），潟・汽水湖
	【海域（沿岸）_潮間帯】砂底・礫底，泥底
国土地域区分：	(4) 河川・湿地地域，(5) 沿岸域，(7) 島嶼地域

【分布域】

わが国では、北海道本島、北方四島、本州北部、中部、南西部に冬鳥として飛来する。繁殖地はロシア極東のベーリング海沿岸部、カムチャツカ州、マガダン州海岸部、ハバロフスク地方の海岸部およびアムール川下流域、サハリン北東部で、冬期は日本のほかにロシア沿海地方、カムチャツカ半島南部、千島列島などでも越冬し、朝鮮半島に南下する個体もいる。

現在の生息状況

【分布域の現況】

冬鳥として、主に北海道及び本州中部以北に分布する。また、国後島など北方四島で越冬する個体は渡り時に北海道本島を通過する。

【生息地の現況】

主な越冬地である河川流域や湖沼、海岸部では魚類、水禽類などの自然餌資源が不足しており、厳冬期には人為的餌資源を求めて、漁場周辺や観光利用のための餌付け、漁港や水産加工場周辺に集まっている。内陸部ではエゾシカの死体にも集まる。人の活動域周辺に分布する個体が多く、エゾシカの自動車事故や列車事故死体に集まり二次的に事故に遭遇する例も増えている。

【個体数の現況】

世界的に成熟個体は 3,600-4,670 羽と推定されている。北海道本島と本州に飛来する越冬数は 2000 年代初めには 2,000 羽を越えていたが以降漸減傾向にあり、2008 年以降は 1,500 羽前後（1,200-1,900 羽）と推定されている。ここ数年の国内の一斉調査では、1,200-1,900 羽で推移しており、このうち、成鳥は約 70%である。これらのことから推定すると、成熟個体は 840-1,330 個体と試算される。また、環境省のホームページには、「北海道東部を中心に約 1,400～1,700 羽が各地に分散して越冬」とされており、ここから成熟個体を試算すると、980-1,190 羽となる。

存続を脅かす要因

河川開発、海岸開発等による自然餌資源の不足と、人為的餌資源への依存。森林伐採によるねぐら林や休み場の減少。狩猟などによって放置されたエゾシカ死骸に由来する鉛中毒が発生している。エゾシカの轢死体に誘引されての車両や列車との衝突事故、感電事故、風力発電施設への衝突事故等が発生している。ロシアの繁殖地では森林伐採、海岸開発、ヒグマによる雛の捕食がある。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，河川開発，海岸開発，交通事故，捕食（在来種による），人工構造物への衝突，その他（鉛中毒）
	（現在）	森林伐採，河川開発，海岸開発，交通事故，捕食（在来種による），人工構造物への衝突，その他（鉛中毒）

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	VU
第4次 2019:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	VU
第4次 2018:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	VU
第4次 2017:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	VU
第4次 2015:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	VU
第4次:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	VU
第3次:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	VU
第2次:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	VU
第1次:	オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus pelagicus</i>	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】絶滅危惧Ⅱ類(Vu), 【青森県】重要希少野生生物(B ランク), 【岩手県】絶滅危惧Ⅰ類, 【宮城県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【秋田県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【山形県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【茨城県】絶滅危惧ⅠB類, 【栃木県】絶滅危惧Ⅰ類(A ランク), 【群馬県】情報不足(DD), 【千葉県】重要保護生物(B), 【新潟県】絶滅危惧Ⅰ類(EN), 【富山県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類, 【山梨県】情報不足(DD), 【長野県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【静岡県】要注目種(N-Ⅱ分布上注目種等), 【滋賀県】絶滅危機増大種, 【奈良県】注目種, 【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【島根県】情報不足(DD), 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種, 保護増殖事業, 国指定天然記念物, 鳥獣保護管理法

参考文献

- BirdLife International, 2001. Threatened Birds of Asia: The BirdLife International Red Data Book Part A. BirdLife International, Cambridge, 1516pp.
- Hoyo, J., A. Elliot and J. Sargatal (eds.), 1994. Handbook of the Birds of the World. Vol. 2. New World Vultures to Guinea-fowl. Lynx Edicions, Barcelona.
- BirdLife International. 2021. *Haliaeetus pelagicus*. *The IUCN Red List of Threatened Species 2021*: e.T22695147A204871862. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2021-3.RLTS.T22695147A204871862.en>. Accessed on 8 August 2025.
- 環境省, <https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/owashi.html>, (2023年9月21日確認)
- Lobkov, E. G. and I. A. Neifel'dt, 1986 (藤巻裕蔵訳, 1994). オオワシの分布と生態. 藤巻裕蔵(編), 極東の鳥類-11, pp. 1-32. 極東鳥類研究会, 帯広.

- マステロフ, V., 2013. サハリン北部のオオワシ個体群の現状と開発地域における保全の展望. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之 (編著), オホーツクの生態系とその保全, pp. 299-308. 北海道大学出版会, 札幌.
- 中川元, 2009. オオワシ. バードリサーチニュース, 6 (2): 2-3.
- 中川元, 2010. オオワシの現状と課題. 斜里町立知床博物館 (編), 知床の自然保護, pp. 62-73. 北海道新聞社, 札幌.
- 中川元, 2013. 日露共同オオワシ・オジロワシ調査の成果と北海道の越冬状況. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之 (編著), オホーツクの生態系とその保全, pp. 281-289. 北海道大学出版会, 札幌.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録改訂第 8 版. 日本鳥学会, 東京.
- 齊藤慶輔, 2013. 北海道におけるオオワシへの脅威と保護の取り組み. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之 (編著), オホーツクの生態系とその保全, pp. 309-318. 北海道大学出版会, 札幌.
- Ueta, M., F. Sato, H. Nakagawa and N. Mita, 2000. Migration routes and differences of migration schedule between adult and young Steller's Sea Eagles *Haliaeetus pelagicus*. Ibis, 142: 35-39.
- ウテキナ, I.・E. ポタポフ・M. マクグレディ・D. リムリンガー, 2013. オホーツク北部におけるオオワシの過去 20 年間のモニタリング結果. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之 (編著), オホーツクの生態系とその保全, pp. 291-298. 北海道大学出版会, 札幌.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Haliaeetus pelagicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Haliaeetus pelagicus* is listed as VU under criteria D1.

D1. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Middle river basin, Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Middle river basin, Lower river basin, Estuary, Lagoon/Lake/Dam, Sea Cliff/Rocky beach/Reef, Lagoon/Brackish lake 【Marine area (Coastal area)_Intertidal zone】 Sandy bottom/Gravelly bottom, Muddy bottom
Threat types:	Logging and wood harvesting, River development, Coastal development, Vehicle collision, Predation (by native species), Collision with man-made structures, Other
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Conservation and reproduction programs. Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	玉田克巳（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）
Author:	Katsumi Tamada

公表年月：2026 年 3 月